

折尾の街づくりに関する交通アンケート調査

01A3712 大城 吉正
01A3751 中村 隆昭
指導教員 田中 邦博

1. はじめに

北九州市西部の中心地である折尾地区は、鉄道による地域分断、慢性的交通渋滞に加え、旧市街地の密集住宅・狭い道路による防災上の問題など、多くの課題を抱えている。駅周辺の再開発については、市による再開発計画があるが、それ以外にも地域の自治区会が各々の立場で再開発案の提示に向けた活動を行っている。

本研究は本学が自治区会連合の依頼を受け、学内に設置した「折尾の街づくり委員会」が母体となり、独自に折尾の街づくりに対する提案をまとめる資料を作することを目的とした。

2. 折尾地区再開発計画

表－1 に、折尾再開発計画事業概要を示す。この表には、平成 12 年当初の構想と平成 15 年の最終的な計画の概要の比較を示している。

表-1 折尾再開発計画事業概要（一覧表）

平成12年折尾街づくり構想		平成15年八幡西区主要事業	
鉄 道 網 の 取 り 扱 い	1 JR鹿児島本線 基幹鉄道として運行本数も多く、都市計画道路とは立体化された現状のまま。	1 JR鹿児島本線 高架化：JR筑豊本線迂回案が浮上し、折尾駅を統合。	
	2 JR筑豊本線 現状維持案：投資経費が膨大となること。技術的課題が多いこと。 立体化案：踏切解消のため若松・黒崎方面路線を立体化。 迂回案：踏切解消と折尾駅の統合を目的に、3号線付近からトンネルで西側に迂回する。	2 JR筑豊本線 迂回案：短絡線を含めた高架化、移設、トンネル化。（筑豊本線の現軌道を国道3号線の南側付近から西側に振って、鹿児島本線に沿った軌道配置するものである。若松方面路線は高架で旧国道199号を越え、黒崎方面路線は鹿児島本線に沿う。）	
道 路 整 備	1 旧199号及び学園大通り 商業業務軸及び学園軸とする地域の軸として位置付け、鉄道との平面交差を解消し、道路の拡幅を行い、駐車帯や歩道空間を確保する。 2 地区内主要道路網 地区内からスムーズに折尾駅や国道3号や折尾中間線にアプローチできる道路の整備。	基本的には同一整備案。 若者向き店舗の誘導、店舗デザインの統一。	
	折尾駅前広場の新設 現在の東口駅前広場の交通負荷を軽減し、利用者の利便性を高める。 2 駅東口駅前広場の充実 北口を交通空間として位置付け、歩行者系空間などアメニティ空間として充実させる。	基本的には同一整備案。 学園都市への交通アクセスの充実。 親水空間、イベント空間。 （東口は南口と改称）	
土 地 区 画 整 理	駅南部市街地での老朽化住宅の密集、緊急自動車の進入可能な幅員を持つ道路の未整備。鉄道による地域分断による合理的で面的な土地利用の遅れ。	駅前周辺、鉄道跡地、住宅密集区域で土地区画整理を実施。西鉄北九州線跡地、地区内主要道路として整備。	

3. 折尾の街に対する住民の意識

3-1 折尾地区住民の意識について

折尾地区住民の意識を調査するため、平成 15 年にアンケート調査を実施し、下記の結果を得た。

(1) 調査目的

今回のアンケート調査は、折尾にはどのような意識の人が住んでいるか。自宅周辺の環境は、地区住民にとってどのようなものであるか、折尾駅へのアクセスに自動車を使用したとき困ったことなどを追求し、折尾地区における街づくりの参考資料とすることを目的とした。

(2) 調査方法

折尾 2 丁目 200 世帯・折尾 4 丁目 220 世帯・浅川 1 丁目 270 世帯・千代ヶ崎 2 丁目 490 世帯・東筑 2 丁目 150 世帯・北鷹見町 120 世帯の合計 1450 世帯にアンケート用紙を配布し、回答用紙は同封した返信用封筒による返送とした。回収率は、12%であった。

(3) 調査結果

返送されたアンケート用紙は、男性が 38.8%で女性が 60.3%であった。年齢別では、10 歳代が 1.9%で一番少なく、60 歳代以上が 42.8%と一番多かった。折尾は多くの人に住みやすい街で、不便・不満などはとくにないが、細かくあげていくと色々問題のある街であることがわかった。改善してほしい問題点として、路上駐車、道路の狭さ、駅前の交通渋滞、駐車場、騒音問題などがある。

3-2 折尾の商店街について

折尾駅周辺にある商店街の意識を把握するため、同様にアンケート調査を実施し、下記の結果を得た。

(1) 意識調査からとりまとめた折尾駅周辺商店街の現状と課題

①商店街の構成

店舗数は 159 店で、内訳は物販店 108 店、飲食店 24 店、サービス業 17 店、その他の業種 10 店である。

②回答者及び来街者の構成

有効回答数 527 件（来街者 294 人、周辺居住者等 233 人）の内、男女別で比較すると男性が 16%で、女性が 84%回答していた。来街者は 90%が北九州市内からとなつて

いる。回答者の66%が、普段買い物をする場所としてこの調査対象商店街をあげている。来街の目的は、84%が「買い物」を目的とした利用である。次いで、32%の人が「金融機関」の利用となっている。利用する交通機関は、「徒歩」が50%を占めている。自宅から商店街までの所要時間は、回答者の97%が30分以内である。

③商店街に来る頻度

商店街に来る頻度は、36%の人が「週に1、2回来る」と回答している。商店街に週に1、2回来る人は、43.6%が「専業主婦」となっている。年齢では、28%の「60代」が多い。商店街に毎日来ると回答している人は、21%である。その内、32%の「60代」が一番多かった。20代以下の人は、6%であった。

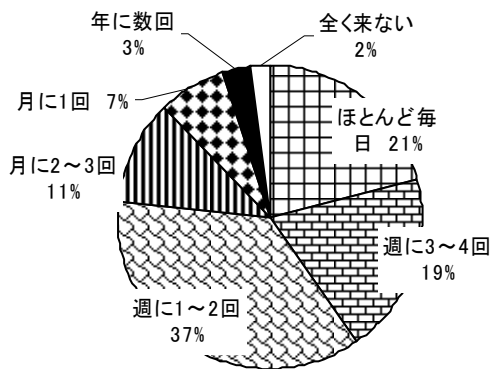


図-1 商店街にはどのくらいの頻度で来るか？

④商店街を利用する理由、利用しない理由

商店街を比較的に利用する理由として、「自宅に近いから」、「商品の値段が安い」、「品質（鮮度）が良い」、「商品（品数）が豊富」の順となっている。

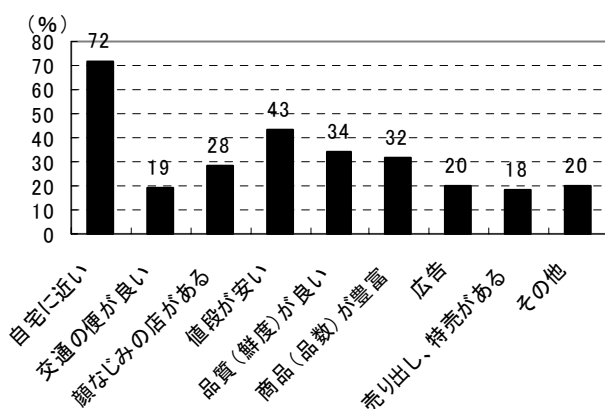


図-2 買い物をする理由

「商品の値段が安い」を指摘する人について、年齢別では40%が「60代」で、職業別では38%が「専業主婦」である。

商店街を利用しない理由は、「自宅から遠い」、「顔なじみの店がない」、「その他」、「駐車場不足」、の順である。「顔なじみの店がない」を指摘する人について、年齢別では42%が「60代」で、職業別では33%が「パート」、「勤め」と職業を持っている人である。

⑤自由意見

駅周辺の店舗構成が偏っている。駅周辺の道路や歩道の環境が整備されていない、などがある。

(2) 意識調査からとりまとめた折尾駅周辺商店街に対する意見・要望

①商店街で充実して欲しい施設及び事業

商店街で充実して欲しい施設は、「バリアフリーを推進した施設」、「レジャー施設」、「駐車場・駐輪場」である。「バリアフリーを推進した施設」を望む人について、年齢別では、35%が「60代」で、職業別では何かしら職をもっている以外の人で76%となっている。

商店街で充実して欲しい事業は、「イベント・祭り」、「共同売出し」、「朝市」である。「イベント・祭り」を望む人について、年齢別では、25%が「60代」で、職業別では37%が「専業主婦」となっている。

②自由意見

住民意見は、イベントをもっとして欲しい（朝市・祭り等）であった。その他には、空き店舗を有効活用してほしい、日曜日に店を開けて欲しい、駐車場・駐輪場の整備を望む意見が多数あり、違法駐車・駐輪の取り締まり、商店街が中心となり街全体に活気を、高齢者や子供に優しい街を作って欲しいという意見が目立っている。

以上のような住民と商店街の意識を踏まえ、折尾の街づくりに必要な要因を把握する目的で、次に示すアンケート調査を実施し、現在北九州市が進めている折尾再開発事業に対する委員会独自の提案づくりを行うための資料取得を実施した。

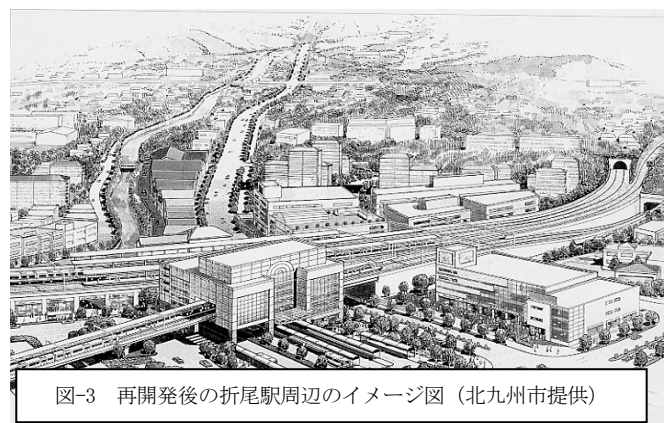


図-3 再開発後の折尾駅周辺のイメージ図（北九州市提供）